

2012年度公益財団法人熊本YMCA事業報告書

第1 事業の状況

〔公益目的事業〕

(事業の内容)

青少年をはじめとする全ての世代の人々の心身の発達や人格の健全な向上を図るとともに、一人の市民として地域社会の発展や世界の平和に寄与できる全人的な成長を促す生涯学習活動

<基本方針>

熊本YMCAの事業は、「ウエルネス事業」、「子育て支援事業」、「国際理解・国際教育事業」という3つ事業領域を中心に構成されており、次の5つを学ぶことを目的とする。

I 自分のいのちとみんなのいのちを大切にすること

一人ひとり自分がかげがえのない存在であることに気付き、お互いのいのちを大切にし、生きる力を身につける。

II 家族、地域のひとりとして責任があること

人と人とのつながり、地域と人とのつながりを通して、一人ひとりが共に仕え合う責任があることを学ぶ。

III 世界と地球を見つめ、考え、行動すること

お互いの違いを認め合って、一つの地球に生きるすべての人のいのちと平和、そして私たちが生かされている自然を守るために行動することを学ぶ。

IV ボランティア精神とリーダーシップを身につけること

お互いに助け合い、支え合う心を育み、人々が生き生きと暮らす地域を守り育てる働きかけが、進んでできる生き方を学ぶ。

V すこやかな心とからだを育むこと

いろいろな人との交わりと活動を体験することにより、すこやかな心とからだを育み、いつも喜びと希望を持ち、充実した人生を送ることを目指す。

(事業の細目)

A ウエルネス事業

1 野外教育活動

(1) 自然体験活動

【強調点】

- ① 自然生活を楽しみ、自然に適応する能力を身につける
- ② 良い習慣を育て実践する
- ③ 健康のための知識を得て、自分の身体を守る方法を知る
- ④ 生活を豊かにする技術を学び、創造力を育む
- ⑤ 良き友人を作る方法を学び、互いの存在と生命を尊重する心を育む
- ⑥ 民主的なグループ経験から、社会に関わる責任感を育む
- ⑦ 神の恵みを知り、感謝の気持ちを養う

(A) 野外通年クラス

【活動内容及び参加者数】

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
1)インディアンズクラブ (宿泊を伴う活動)	月目標	10	8	15	8	41
	月平均	6	10	7	5	28

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
2)サタデーインディアンズクラブ (日帰り活動)	月目標	5	25	5	10	45
	月平均	0	35	9	4	48

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
野外活動（通年クラス）	月目標	15	33	20	18	86
合計	月平均	6	45	15	9	76
内、参加費減免制度の利用者数		0	0	0	0	0

〔年度評価〕

- 1) 宿泊を伴うインディアンズクラブは年間を通して微増で推移した。グループワークを通じたプログラムの教育的価値が再認識されてきているように感じている。
- 2) 日帰り活動のサタデーインディアンズクラブは、年間を通して、多くの体験参加が得られた。但し、全ての参加者が年間登録している状況にはなく、年間登録を推進できるよう、魅力あるプログラムを継続的に行っていく必要がある。

(B) 野外活動（季節キャンプ）

【活動内容及び参加者数】

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
1) 春期キャンプ	目標	20	—	15	15	50
	参加者	40	—	15	26	81
2) 夏期キャンプ	目標	110	125	125	110	470
	参加者	123	128	129	120	500
3) 冬期キャンプ	目標	70	80	50	50	250
	参加者	94	80	69	46	289
合計	目標	200	205	190	175	770
	参加者	257	208	213	192	870
内、参加費減免制度の利用者数		4	4	2	0	10

〔年度評価〕

学校の長期休業期間に実施する春・夏・冬期キャンプは、熊本市及び熊本県教育委員会の後援を得たことで、学校を通しての案内を行うことができ、多くの子ども達にYMCAのキャンプを提供することができた。中でも、初めて参加した子どもが前年より63名増の239名となったに感謝したい。また、春期キャンプでは女の子だけのキャンプを企画し、29名という多くの参加者を得ることができた。

(C) 障がい児支援キャンプ

【活動内容及び参加者数】

プログラム名	担当部署	実施日	参加者数
1) ポニーキャンプ (熊本盲学校との共催)	ICR	7月25日～27日	生徒：13名 ボランティア等：44名
2) コスモスキャンプ (日本自閉症協会熊本県支部との共催)	阿蘇	8月18日～19日	児童：24名 ボランティア等：58名

〔年度評価〕

- 1) ポニーキャンプは熊本県立盲学校と協力して、7月25日～27日の2泊3日、熊本県あしきた青少年の家を会場に、学生13名とボランティア含む総勢44名でキャンプを実施した。特に恒例となっているスキューバ体験は子どもたちに日頃経験できないことを提供する場となった。
- 2) 8月18日～19日に開催したコスモスキャンプは、子ども24名、保護者8名、ボランティア50名の総勢82名での実施となった。水遊びや創作ゲームやコミュニケーションゲームなどを通して、子どもたちにとって必要とされる社会性、協調性などの成長を図る機会を提供できる貴重な機会となった。

(D) 災害児支援キャンプ

【活動内容及び参加者数】

プログラム名	担当部署	実施日	参加者数
あそぼうキャンプ	阿蘇	9月15日～17日	児童：40名 ボランティア等：38名

〔年度評価〕

全国から寄せられた被災児支援の指定寄附金を用い、東日本大震災で被災し熊本県内に居住している児童及び九州北部豪雨災害で被災した児童が2泊3日の日程で、精神科医のケアのもとホームセラピーや野外体験活動を行った。子ども達にとって、互いに協力しながら自然と触れ合うことは楽しい思い出となった。

(2) リーダーシップ養成活動

【強調点】

- ① ボランティアとして活動する機会を通して、共に支え合う社会づくりを目指す。
- ② グループワークの手法を活用しながら、各々相互に成長の機会を創造していく。

【活動内容及び参加者数】

プログラム名	担当部署	実施日	参加者数
1)熊本YMCAキャンプリーダー トレーニング	野外教育	5/21, 22, 28, 29 11/12, 13	延90名
2)全国YMCAリーダー研修会	野外教育	10/6～8	107名

〔年度評価〕

キャンプリーダートレーニングをはじめ、全国YMCAリーダー研修会を通して、ボランティアリーダーのより主体的な活動が活性化できたことを評価したい。自主的な取り組みにより、熊本YMCAリーダー研修会も実施され、今後の継続を期待している。

(3) 自然環境の保全活動

【強調点】

- ① 阿蘇キャンプ60周年記念事業を通して年間を通じた自然環境保全活動を実施する。
- ② 未来を担う青少年の森づくりを推進するために、熊本県森林整備課みどり推進班との協働事業を実施する。
- ③ ウェルネス事業部(野外)でのシーズンキャンプで環境教育キャンプを実施する。

【活動内容及び参加者数】

プログラム名	担当部署	実施日	参加者数
1)植林事業(森林探検隊) (会場:阿蘇市端辺及び鹿解川原)	野外教育	4月22日	21名
2)環境教育プログラム体験ツアー (アメリカフロストバレーYMCA)	野外教育	10月3日～10日	9名
3)環境教育プログラム (会場:YMCA的石キャンプ場ほか)	阿蘇	4月21日、5月25日、 7月27日	各回30名 延べ90名
4)熊本県青年森林協力隊推進事業	野外教育	10月に予定	20名
5)YMCAエコキャンプ	阿蘇	8月23日～25日	24名
6)九州キャンプミーティング	野外教育	2013.02.23～24	30名

〔年度評価〕

<強調点①>

年間を通じた自然環境保全活動、特に植林活動を展開することができた。

- ・ 4月22日アースデイウィークの一環として、阿蘇YMCAで森林探検隊による植林事業を実施した。参加者21名(YMCA高等学校、阿蘇運営委員、幼児、小学生、阿蘇市森林組合職員、スタッフ)は、植樹にはうってつけの雨天の中、最初に森林組合の方より植樹の

仕方や森の機能などについて説明・指導を受け、その後、阿蘇キャンプ60周年を記念して久留米ツツジ（ピンク・赤）を60本、植樹した。

- ・ 10月3日～10日アメリカ・フロストバレーYMCA環境教育プログラム体験ツアーを実施し、フロストバレーのメイプルシロップ作りを参考に、的石キャンプ場に実のなる樹木等を植樹すること等が阿蘇キャンプ60周年記念事業のひとつとして提案され、2013年3月20日にブルーベリー20本を植樹した。

<強調点②>

未来を担う青少年の森づくりを推進するために、菊池森林組合、阿蘇林業（熊本県認定事業体）との協働事業により「森林経営計画書」作成し熊本県に提出できた。

<強調点③>

計画通り、環境教育キャンプを実施することができた。

- ・ 8月23日～25日阿蘇YMCAで環境教育を目的とした「YMCAエコキャンプ」を実施した。参加者はメンバー19名、スタッフ5名の24名で、熊本県学習センター訪問やマゼノ渓谷探検などの環境教育プログラムを体験した。
- ・ 地球環境の保全及び自然環境の保護を目的とし、ウエルネス事業部(野外)でのシーズンキャンプ参加者506名全員に環境教育教材を配布した。(子どもeco検定公式テキスト：地球教室基礎編・応用研究編ほか)
- ・ 2013年2月23日～24日阿蘇YMCAにて、九州各県のキャンプ関係者が一同に会し、「キャンプと自然環境保全」をテーマに環境保全のシンポジウムを開催した。

2 健康教育活動

(1) スポーツ活動

ア 子どもスポーツ活動

【強調点】

- ① フィットネスを向上させます。
- ② 新しい技術を習得します。
- ③ 創意工夫の涵養と気力を充実させます。
- ④ 安全思想の理解と安全技能を修得します。
- ⑤ 人と人との交わりを大切にします。
- ⑥ 「思いやり」、「誠実さ」、「尊敬心」、「責任感」をすべての場面で大切にします。

(A) 通年クラス

【活動内容及び参加者数】

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
体育英語幼稚園	月目標	22	—	20	20	62
	月平均	25	—	23	20	67

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
体操	月目標	196	280	212	245	933
	月平均	198	289	203	242	932

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
新体操	月目標	40	45	60	55	200
	月平均	31	41	52	60	182

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
サッカー	月目標	115	140	75	270	600
	月平均	97	143	98	226	564

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
水 泳	月目標	—	1 0 7 5	1 0 4 1	9 3 0	3 0 4 6
	月平均	—	1 0 6 2	1 0 0 7	9 1 0	2 9 7 9

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
ヒップホップ	月目標	1 5	1 0	4 5	8 5	1 5 5
	月平均	1 2	2 8	3 2	9 1	1 6 3

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
合 計	月目標	3 8 8	1 5 5 0	1 4 5 3	1 6 0 5	4 9 9 6
	月平均	3 6 3	1 5 6 3	1 4 1 4	1 5 4 8	4 8 8 7
内、参加費減免制度の利用者数		4	2 6	2 1	1 8	6 9

〔年度評価〕

- ・ 全定員に対して最終的に上半期の未達を下半期で補填することが出来なかった。
- ・ 体育英語幼児園、ヒップホップは微増し年間を通して安定していた。
- ・ サッカー、新体操が定員に対して微減で推移した。
- ・ 水泳は上半期の未達を補填できる定員増まではいたらなかった。
- ・ 体操は上半期の未達を補填し定員に達することが出来た。

(B) 講習会

【活動内容及び参加者数】

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	むさし	計
1)春期講習会	目 標	1 0 0	1 4 5	2 1 5	1 8 0	6 4 0
	参加者	6 5	1 6 0	1 5 3	1 9 7	5 7 5
2)夏期講習会	目 標	1 9 8	4 8 0	5 5 5	4 6 5	1 6 9 8
	参加者	1 9 5	4 3 6	4 8 5	4 8 4	1 6 0 0
3)冬期講習会	目 標	1 0 8	1 7 5	2 2 0	2 4 0	7 4 3
	参加者	9 3	1 5 1	2 5 8	2 1 3	7 1 5
合 計	目 標	4 0 6	8 0 0	9 9 0	8 8 5	3 0 8 1
	参加者	3 5 3	7 4 7	8 9 6	8 9 4	2 8 9 0
内、参加費減免制度の利用者数		0	4	7	0	1 1

〔年度評価〕

- ・ 講習会全体の定員を満たすことが出来なかった。
- ・ 春・夏期間の未達が最後まで補填できなかった。
- ・ 水泳・体操など微減状況となっている。

イ 発達障がい支援活動

【強調点】

- ① ライフステージに応じた、発達障がいのあるメンバーへの支援活動
- ② 青年期の発達障がい者支援（A型事業所、若者サポステへの協力）
- ③ 地域 Y、事業部ごとの発達障がい理解研修計画実施に協力
- ④ 中央 Yでの新規フロアプログラムの開始

【活動内容及び参加者数】

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	計
通年クラス	月目標	3 0	2 0	2 2	7 2
	月平均	2 2	2 0	2 8	7 0
内、参加費減免制度の利用者数		2	0	1	3

プログラム名		中央	みなみ	ながみね	計
講習会（夏期のみ）	目標	10	—	—	10
	参加者	8	—	—	8
内、参加費減免制度の利用者数		1	0	0	1

〔年度評価〕

<中央>

- ・ 上半期は、学習支援クラスで21名。新規プログラムであるフロア支援のクラスに2名、合計23名、下半期は、学習支援20名、フロア支援2名の在籍生を確保し運営を行った。
- ・ 学習支援では中学から高校へ進学する生徒への進路相談などを保護者向けに行った。
- ・ 保護者支援の一環として、若者サポートステーションや就労継続支援A型事業所との関わりを深めた。
- ・ フロアプログラムでは、運動能力を支援することにより、様々な感覚をスムーズに認知できるトレーニングを継続中である。
- ・ 今後は支援が十分でない小・中学校への支援活動を展開したり、それぞれの年齢に応じた支援ができるようホームページなどで広く情報発信を行っていきたい。

<みなみ>

- ・ 参加種別は水泳が中心で、フロアの参加者が減少している。
- ・ 参加者が高学年となり、学習支援について検討をしていきたい。

<ながみね>

- ・ プール・フロアで29名まで参加者が増えた。運動能力の支援とグループワークによる社会性を身につける経験などを提供する。フロアは施設の大きさと受入体制との関係から数名が待機状況にある。

ウ 成人スポーツ活動

【強調点】

- ① 運動の楽しさ、習慣を身につける。
- ② 日常生活に必要な体力・筋力の維持、増進を図る。
- ③ 生活習慣病を予防する。
- ④ 医療機関と連携し、メディカルチェックを積極的に展開する。

【活動内容及び参加者数】

プログラム名		みなみ	ながみね	むさし	計
アクア		○	○	○	
ジム		○	—	○	
フィットネス		○	○	○	
人数計	月目標	970	220	785	1975
	月平均	830	156	708	1694

プログラム名		みなみ	ながみね	むさし	計
スイミング教室	月目標	25	—	15	40
	月平均	25	—	12	37

〔年度評価〕

- ・ 年間を通して定員に達することが出来なかった。
- ・ シニア層の参加者は微増傾向である。
- ・ 若年層や時間帯で参加格差が見られる。

エ 高齢者スポーツ活動

【強調点】

- ① 高齢者の心身機能、および生活機能の低下を予防する。

- ② 要介護状態にならない、悪化させない介護予防プログラムを実施する。
- ③ 下肢筋力を中心に機能維持、改善するプログラムを実施する。
- ④ 医療機関と連携し、メディカルチェックを積極的に展開する。

【活動内容及び参加者数】(メディカルチェック費用YMC A負担者数)

プログラム名		みなみ	ながみね	むさし	計
メディカルコース (各月の申込者数)	年間目標	10	20	20	50
	参加者数	44	0	57	101

※メディカルコースの参加人数は、「成人スポーツ活動」の参加人数にも含んでいる。

[年度評価]

- ・ 年間延100名の利用者の把握と観察の徹底を重視した。
- ・ 利用者の拡充と効果測定を継続を目指す。

(2) 地域支援活動

【強調点】

- ① 熊本市内・熊本市近郊の小学生、保育・幼稚園児、YMC A水泳クラス生への「ウォーターセーフティハンドブック」の無償配布
- ② 諸団体への水上安全講習会アピール
- ③ 大人、保護者対象の水上安全講習&救急法の実施
- ④ YMC A水泳教室生への「水上安全講習・着衣泳体験」実施

(A) 水の安全キャンペーン

【セーフティハンドブック配布部数及び配布先】

		中央	みなみ	上通	ながみね	むさし	阿蘇	計
水の安全ハンドブック： 配布部数	計画	1200	2600	0	2100	2900	500	9300
	結果	1144	2400	30	1915	2800	400	8659
配布先：小学校	計画	18校	43校	0	19校	39校	11校	130校
	結果	18校	36校	1	18校	41校	11校	124校
幼稚園	計画	-	1園	-	1園	2園	-	4園
	結果	-	-	-	2園	2園	-	4園
保育園	計画	-	1園	-	2園	1園	4園	8園
	結果	-	-	-	1園	1園	4園	6園
着衣泳指導先	小学校、幼稚園、保育園からの依頼により実施（下記のとおり）							

【着衣泳指導先】

校・園名	期日	曜	対 象	人数	実施Y	指導者
かすみ保育園	6月21日	木	年中～年長	51	むさし	3
ときわ幼稚園	6月25日	月	年中	76	むさし	3
ひろやすにし保育園	6月26日	火	年中・年長	51	ながみね	2
出水小学校②	6月28日	木	2-1-5年	236	みなみ	3
白川保育園	6月28日	木	1歳児以上（入水は4・5歳児）	130	むさし	3
麻生田保育園	6月28日	木	4歳・5歳児	50	むさし	2
白川幼稚園	6月29日	金	3歳・4歳・5歳児（56名）	140	むさし	2
ときわ幼稚園	7月2日	月	年長	80	むさし	2
力合幼稚園	7月2日	月	年長30名2クラス	60	みなみ	2
熊本音楽幼稚園	7月3日	火		90	みなみ	2
川尻保育園	7月4日	水	年長・年中	33	ながみね	2
赤水保育園	7月5日	木		45	ながみね	4
御船小学校	7月6日	金	保護者BLS（CPR・AED）	200	むさし	2
大津東小学校	7月6日	金	保護者BLS（CPR・AED）	50	ながみね	2

御幸小学校	7月9日	月	1年・6年・5年	300	ながみね	3
御幸小学校	7月10日	火	2年・3年・4年	300	みなみ	3
飽田西小学校	7月11日	水	3・4年、1・2年、5・6年	122	むさし	3
永草・尾ヶ石保育園	7月12日	木		35	みなみ	4
奥古閑小学校	7月12日	木	2学年ずつ	153	みなみ	3
銭塘小学校	7月13日	金	3・4年49名/5・6年50名	99	みなみ	3
川尻小学校	7月13日	金	1・2年150名/3・4年170名 /5・6年140名	460	みなみ	3
おげき保育園	7月13日	金	年中・年長（講話全園児）	60	ながみね	2
西原小学校	7月17日	火	5年、6年	240	ながみね	2
西合志南小学校	7月18日	水	6-4-3年 45分	360	むさし	3
出水小学校	7月18日	水	6-3-4年	236	ながみね	3
上内小学校	7月18日	水	全学年	50	ながみね	3
黒川保育園	7月19日	木		45	みなみ	4
ときわ幼稚園	9月4日	火	年長	80	むさし	2
大津音楽幼稚園	9月11日	火	年長児3クラス	90	むさし	3

〔年度評価〕

- ・ 総勢3922名という多くの子どもたちに水難事故の防止、水上安全教育の重要性について伝えることが出来た。

(B) 指導者派遣（熊本市内及び周辺地域）

【活動内容及び参加者数】

場所	プログラム	日程	曜	対象	人数	実施Y	指導者
白川小学校	レクリエーション指導	6月3日	日	小3	75	中央	2
白川小学校	レクリエーション指導	6月10日	日	小2	100	中央	2
白川小学校	レクリエーション指導	7月1日	日	小5	100	中央	2
画図小学校	レクリエーション指導	4月22日	日	1～6年	180	みなみ	2
秋津5町内子ども会	レクリエーション指導	5月12日	土	小学生	25	みなみ	1
御幸小学校	レクリエーション指導	6月23日	土	1年親子	170	みなみ	1
四季の里（旭志）	キャンプ指導	6月29日	金	保育士	60	みなみ	1
隈庄小学校	レクリエーション指導	7月1日	日	4年	180	みなみ	1
月出2町内子ども会	レクリエーション指導	4月21日	金	小学生	120	ながみね	2
帯山4町内子ども会	レクリエーション指導	5月12日	土	小学生	90	ながみね	2
桜木4町内子ども会	レクリエーション指導	5月13日	日	小学生	30	ながみね	1
けんぐん9町内子供会	レクリエーション指導	5月19日	土	小学生	100	ながみね	2
秋津小学校	レクリエーション指導	1月19日	土	2年生	100	ながみね	2
桜木小4町内子ども会	レクリエーション指導	2月23日	土	小学生	100	ながみね	2
上益城教員	水泳指導	6月13日	水	成人	30	ながみね	2
月出小学校	水泳指導	6月30日	土	小学生	21	ながみね	5
託麻南小学校	水泳指導	11月17日	土	小学生	6	ながみね	3
津森小学校	水泳指導	12月1日	土	小学生	3	ながみね	1
永江団地自治会	運動指導	6月27日	水	成人	80	むさし	1
西里保育園	水泳指導	7月10日	火	幼児	26	むさし	4
麻生田保育園	水泳指導	7月17日	火	幼児	50	むさし	4
菊池養生園	運動指導	7月19日	木	成人	20	むさし	1
かすみ保育園	キャンプ指導	7月20日	金	幼児	50	むさし	2

南ヶ丘小学校	水泳指導	7月17日	火	小学生	120	むさし	1
倉永公民館	レクリエーション指導	5月12日	土	小学生	18	リフレス	2
リフレスおおむた	レクリエーション指導	5月17日	木	中学生	52	リフレス	2
明治小学校	レクリエーション指導	6月6日	水	小学生・保護者	69	リフレス	2
明治小学校	レクリエーション指導	6月7日	木	小学生・保護者	72	リフレス	2
明治小学校	レクリエーション指導	6月13日	水	小学生・保護者	59	リフレス	2
緑ヶ丘小学校	レクリエーション指導	6月16日	土	小学生・保護者	128	リフレス	2
明治小学校	レクリエーション指導	6月21日	木	小学生・保護者	76	リフレス	2

〔年度評価〕

- ・ レクリエーション指導が中心であるが、水泳指導依頼も増加、定着してきた。

B 子育て支援事業

1 幼児保育活動（ぶどうの木幼児園）

【強調点】

- ① 健康で安全な生活習慣を身につけます。
- ② 遊びを通して積極的、自発的行動を促します。
- ③ 物事への正しい理解と興味関心を促します。
- ④ 体育、言語、音楽、造形活動を通して創造力を育みます。

【活動場所及び参加者数】

<みなみYMCA>

ぶどうの木幼児園		2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
人 数	月目標	2	4	1	—	7
	月平均	6	6	3	1	16

〔年度評価〕

- ・ 途中入園の受け入れで、大きく園児数の増員となった。
- ・ 2・3歳児の受け入れと3～4年保育の推奨・充実を図りたい。

2 アフタースクール（学童保育）

【強調点】

- ① 学校後の子どもたちの安全で教育的な居場所作りを行う。
- ② 地域のもうひとつの学校、もうひとつの家庭として子どもたちの健やかな成長の場を提供する。
- ③ 学校の学童保育後の預かりも行い、共働き家庭の支援を行う。
- ④ 「思いやり」、「誠実さ」、「尊敬心」、「責任感」をすべての場面で大切にする。

(A) 通年クラス

【活動内容及び参加者数】

プログラム名		みなみ	ながみね	むさし	計
アフタースクール	月目標	20	—	18	38
	月平均	14	—	18	32

プログラム名		みなみ	ながみね	むさし	計
児童絵画	月目標	5	10	—	15
	月平均	4	10	—	14

プログラム名		みなみ	ながみね	むさし	計
作文教室	月目標	5	—	—	5
	月平均	2	—	—	2

プログラム名		みなみ	ながみね	むさし	計
合 計	月目標	30	10	18	58
	月平均	19	9.1	18	48
内、参加費減免制度の利用者数		2	0	2	4

(B) 講習会

【活動内容及び参加者数】

プログラム名		みなみ	ながみね	むさし	計
1)夏期講習会	目 標	85	20	—	105
	参加者	105	16	—	121
2)冬期講習会	目 標	20	5	—	25
	参加者	27	3	9	39
合 計	目 標	105	25	—	130
	参加者	132	19	9	160
内、参加費減免制度の利用者数		4	4	0	8

〔年度評価〕

<みなみ>

- ・ シーズン参加者のニーズに対応した期間設定で微増した。
- ・ 送迎バス利用ニーズに対応した受け入れを行った。
- ・ 参加者のニーズに対応したクラス設定へと変更した。

<ながみね>

- ・ アフタースクールとしては通常クラスは開講ができていないが、児童絵画のみの参加希望は定着した。また夏休み、冬休みなど短期プログラムには参加があり、預かりの希望があった。

<むさし>

- ・ 年間を通して、安定した運営ができた。ここ数年新年度に向けた問い合わせなどが早くなってきており、今後更に必要とされる可能性があるように感じる。

C 国際理解・国際教育活動

1 国際交流活動

【強調点】

- ① 国際プログラムに参加する機会を幅広い世代に広く提供することで、アジアの課題や多文化共生について考え、学ぶ機会を参加者は得ることができる。
- ② 青少年、ユース・リーダー、学Yのメンバーに国際的な活動に参加する機会を多く提供し、体験を広く伝えていただく機会を設け、保護者、YMCA会員が、グローバルな視点を持つようになる。
- ③ 1Y1アジア運動、タイ里親運動、国際協力青少年育成年末募金など熊本YMCA独自で行っている国際協力活動を広く伝えることで、熊本の地で様々な方々がアジアを身近なものとして捉えることができる。

(A) 海外派遣

【活動内容及び参加者数】

プログラム名	担当部署	実施日	参加者数
タイワークキャンプ	ICR	7月21日～30日	9名
タイスタディツアー	ICR	7月21日～27日	4名
ミャンマー・モガウンYMCA訪問	みなみ	5月22日～27日	2名
カンボジア孤児院訪問	上通	実施なし	—
タイスタディツアー	ながみね	実施なし	—
カンボジアスタディツアー	むさし	2月19日～25日	4名

〔年度評価〕

< I C R >

- ・ タイワークキャンプは、7月21日～30日の9泊10日の日程で、タイのチェンライ県・チェンマイ県のYMCAを学生8名引率1名の計9名が訪問した。タイ少数民族山岳民族の子どもたちが学校へ通うための生活施設「若竹寮」を訪ね、共同生活やワークを通して、異文化体験、交流を行い、また実際に山岳民族の村にホームステイも行った。日常と違うアジアでの生活体験を通じて、多文化共生そして地球市民としてのありようを学ぶ機会となった。
- ・ アジアスタディツアーは、7月21日～27日の6泊7日の日程で、タイのチェンライ県・チェンマイ県のYMCAを参加者3名引率1名の計4名が訪問した。タイ少数民族山岳民族の子どもたちが学校へ通うための生活施設「若竹寮」を訪問、また国境紛争、エイズ孤児、ストリートチルドレン、医療制度など現地における社会的課題・問題について学ぶ機会となった。

< みなみ >

- ・ ミャンマー・モガウンYMCAを5月22～27日の日程で3名が訪問、支援金と支援物を贈呈し、子どもたちとの交流や現地スタッフとの協議などを行った。民芸グッズなども購入し、今後支援金捻出への可能性について検討する。11月11日の平和月間プログラム、11月24日の地域チャリティプログラムなどで募金活動を実施し、次年度の支援活動資金の調達に努めた。

< 上通 >

- ・ YMCA of Singapore との日程調整がつかず、2012年度の活動は見合わせる事となった。

< ながみね >

- ・ タイ支援については、里親支援と小委員会の実施のみに終わった。日本YMCA同盟の要請により、東ティモール支援に職員を派遣した。その後、その支援についてのプロジェクトを実施した。

< むさし >

- ・ 2月に2回目となる4名の派遣を行うことができた。今回の派遣により、カンボジアYMCAとのコミュニケーションも深まり、実際のスタディツアーの骨子を固めることができた。また、カンボジアスタディツアー実施に向けて、むさしYMCA独自の取り組みとして、「外貨たんす募金」を開始した。これは、各家庭で特に目的がないままに保存されている外貨を寄贈いただき、それを日本円他に換金することで、スタディツアーをはじめとした交流事業に活用していくものである。多くの方の賛同を得られるようアピールしていきたい。

(B) 海外受入

【活動内容及び受入者数】

プログラム名	担当部署	実施日	受入者数
ICCPJ 海外キャンプカウンセラー受入 (ICCPJ: インターナショナル・キャンプ カウンセラー・プログラム)	阿蘇/ 上通	阿蘇: 7月17日～8月17日 上通: 8月17日～24日	1名

〔年度評価〕

< 阿蘇YMCA >

- ・ 7月17日から8月17日までの1ヵ月間、台湾からのユースリーダーの受け入れを行ったが、積極的な実習態度であった。日本の文化理解、日本語の習得、与えられた役割など日々成長がみられ、実り有る研修となった。

< 上通YMCA >

- ・ 上通YMCAは主として国際交流を担った。具体的には、大学生を主体とする国際ユースボランティアとの交流、日本人家庭でのホームステイなどである。ゆかた祭でのボランティアを計画していたが、九州北部豪雨災害のための救援活動を阿蘇YMCAが担った関係で実施できなかった。

(C) 国内交流

【活動内容及び参加者数】

プログラム名	担当部署	実施日	参加者数
広島ピースセミナー	ICR	8月4日～6日	3名
PHD協会研修生との交流	ICR	1月17日	10名

〔年度評価〕

- ・ 広島ピースセミナーは8月4日～6日の2泊3日で学生2名、職員1名を派遣した。現地広島YMCAの主催で世界各地から参加した学生、また国内から参加したユース世代との交流、そして被爆体験者からのメッセージ、平和記念式典への参列などを体験し核廃絶、非核非武装そして平和の尊さについて学びつつ地球市民としての育成の機会となった。
- ・ PHD協会の研修生3名と国内研修生1名、スタッフ1名を迎えて、多文化共生理解プログラムとしてYMCA高等学校の学生と交流を行った。海外からの研修生の報告を聞いた後、高校生と留学生がグループに分かれてディスカッションを行い、より深い交わりを持つことができた。

2 語学教育活動

(1) 国際理解を深めるための外国語教室

ア 子ども英語教育活動

【強調点】

- ① キャラクターディベロップメントを取り入れたレッスンを通しての人格形成
- ② グループワークによる基礎的なコミュニケーション能力の育成
- ③ アルファベットと基礎的フォニックスを中心とした英語力の習得
- ④ 挨拶、クラスルームイングリッシュ、基本単語の習得

【活動内容及び参加者数】

プログラム名		中央	みなみ	上通	ながみね	むさし	計
子ども英語	月目標	55	230	15	146	160	606
	月平均	51	265	14	147	159	636
内、参加費減免制度の利用者数		0	8	0	1	2	11

〔年度評価〕

- ・ みなみYMCAは目標を上回る参加者数を得た。他のYMCAはほぼ目標どおりであった。
- ・ 毎週のレッスンの中でも、クラスメイトを思いやる心を育むこと、小学生高学年や中学生には環境問題や多分化共生社会に関心をもってもらえるようなレッスンの工夫を行った。またそのための講師研修会も前年度よりも回数を増やして実施した。
- ・ 障がいのある受講生には、保護者とのカウンセリングを行い、専門のアシスタントを配置するなどして対応した。
- ・ 実用的な英語能力の向上にもさらに力を入れた。上半期と下半期に小テストを行い、英語力が着実に着いているかの確認とそのあとのフォローアップを行った。

イ 成人語学教育活動

【強調点】

- ① ボーダレス社会で役立つ、実用的な語学力を養成します。
- ② 多様性と違いを受け入れることを大切にした教育を行います。
- ③ 世界の人々との対話を深め、共に生きることを目指します。

【活動内容及び参加者数】

プログラム名		みなみ	上通	ながみね	むさし	計
英会話クラス	月目標	50	175	20	50	295
	月平均	41	159	19	39	257

プログラム名		みなみ	上通	ながみね	むさし	計
目的別クラス	月目標	—	10	15	—	25
	月平均	—	18	0	—	18

プログラム名		みなみ	上通	ながみね	むさし	計
世界のことば	月目標	—	60	—	—	60
	月平均	—	66	—	—	66

プログラム名		みなみ	上通	ながみね	むさし	計
合計	月目標	50	245	35	50	380
	月平均	41	243	19	39	341

<参加費半額免除制度の利用者数> (対象：高校生～大学生)

	みなみ	上通	ながみね	むさし	計
通年クラス	4	20	3	1	28

[年度評価]

- ・ 一年を通じて目標を下回る参加者数でとなった。一方、参加者減免制度を利用する高校生、大学生は着実に増えており、上通YMCAが最も顕著であった。主に受験対策や将来の留学、就職活動に備えて、という受講理由が多かった。
- ・ 一年を通して上通YMCAで行っている季節の行事や時事をテーマにしたセミナー形式の外国語レッスンには昨年度を大きく上回る230名の参加者があった。また、みなみYMCAでは「ハワイアンファンタイム」、むさしYMCAでは「モーニングインディア」など英語学習に留まらない多彩な内容のセミナーに多くの参加者を得ることができた。

(2) 国際理解のための日本語教室

【強調点】

- ① 外国人のためのクラスルームコミュニティ形成の場と機会の提供
- ② 実用的な語学力の養成(生活、日本語検定対策)
- ③ ボランティアを通して日本人会員との交流を促進する

【活動内容及び参加者数】

事業所	プログラム名	生活日本語 クラス	短期留学生 クラス	日本語教師 養成クラス	合計
	上通YMCA	月目標	12	7	8
月平均		13	5	7	25

[年度評価]

- ・ 参加者数は年間目標数を若干下回って推移したものの、日本語教師養成講座は一時期、目標値を上回る参加者を得た。この講座は働きながら日本語教師を目指す人を対象に毎週土曜日に開講しており、熱心な受講者が学習に励んだ。
- ・ 短期留学生クラスには、1月から2月にかけて韓国の東園大学で日本語を履修する学生の団体受講、台湾のYMCAを通じた申込みが相次いだ。
- ・ 生活日本語では、主に熊本に居住する外国人が週に2回上通YMCAに通って日本語を学んでいる。
- ・ 上記のほか、サウジアラビア大使館を通して日本語学習者を受入れるなどして、質の高い日本語コースの高評価が熊本県内はもとより国内、海外で定着しつつある。

II 収益事業

1. 宿泊及び料飲に関する事業（阿蘇YMCA）

【事業内容及び利用者数】

	宿泊利用者		飲食提供者		合 計	
	月平均	累計	月平均	累計	月平均	累計
年間目標	362	4345	343	4115	705	8460
利用者数	308	3695	750	8995	1058	12690

① 宿泊に関する事業

〔年度評価〕

- ・ 7月の九州北部豪雨災害でのキャンセル数を補うことができなかった。その結果、達成率は78.7%となった。

② 料飲に関する事業

〔年度評価〕

- ・ 飲料事業に関しては、日帰り利用をはじめ、食事利用が多かったことから128.5%の達成率となった。

2. 指定管理施設受託及びそれに附帯する事業

（*福岡県大牟田市所有の多目的活動施設「リフレスおおむた」の管理運営）

（1）主催事業

【活動内容及び参加者数】

*印は月2回実施

事業名		回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
なんでもやる隊 (野外活動クラブ)	計画	9回		40	40	40		40	*80	40	40		40	
	実数	9回		19	18	15		19	29	18	15			
がまだす隊 (野外活動クラブ)	計画	9回		36	36	36	36	36	36	*72	36			
	実数	9回		30	24	23	28	25	30	46	29			
長期宿泊体験	計画	1回					20							
	実数										14			
野外活動指導者 養成事業	計画	1回			15									
	実数				—									
レクリエーション指導	計画	通年												
	件数			2	5									
キャンプファイヤー指導	計画	通年												
	件数					32								
春の野草を食べよう	計画	1回	100											
	実数		111											
星空観察会	計画	2回				90						90		
	実数						66						10	
ほたる観察隊	計画	1回		40										
	実数				74									
成人陶芸教室	計画	9回						48	80	16				
	実数							30	48	10				
親子陶芸教室	計画	2回		36	36									
	実数			33	37									
親子陶芸絵付け 教室	計画	1回				36								
	実数					26								

クッキング講習会	計画	8回										45	60	15
	実数											42	54	16
高齢者向け 転倒予防体操	計画	2回						30						
	実数						13	8						
女性教養講座 (ワコソ料理教室)	計画	8回		60			60							
	実数									64				
きもの着付け 教室	計画	2回				20				20				
	実数					4				11				
親子クッキング教室	計画	2回										20		
	実数											3		
アウトドア親子 クッキング教室	計画	2回											20	
	実数												9	
ヨガ&健康体操 教室	計画	139回	144	154	144	144	110	144	168	156	132	156	132	84
	実数		140	201	133	118	101	121	145	125	103	114	112	85
山野草盆栽教室	計画	4回		16	16					16	16			
	実数				16	14					17			
バドミントン大会	計画	2回		25組							25組			
	実数					30組					29組			
サークル発表会	計画	1回												50
	実数													38

[レクリエーション指導内訳表]

場所	プログラム	日程	曜	対象	人数	指導者
倉永公民館	レクリエーション指導	5月12日	土	小学生	18	2
リフレスおおむた	レクリエーション指導	5月17日	木	中学生	52	2
明治小学校	レクリエーション指導	6月6日	水	小学生・保護者	69	2
明治小学校	レクリエーション指導	6月7日	木	小学生・保護者	72	2
明治小学校	レクリエーション指導	6月13日	水	小学生・保護者	59	2
緑ヶ丘小学校	レクリエーション指導	6月16日	土	小学生・保護者	128	2
明治小学校	レクリエーション指導	6月21日	木	小学生・保護者	76	2

[年度評価]

- ・ 1年を通して多くの市民の方々にご参加、ご利用いただいた。
- ・ 人気がある事業の回数を増やす反面、関わっていただくボランティアの方々が負担に感じないバランスが重要。その意味でも多くのボランティアをさらに育成していくことが必要となっている。
- ・ 野外指導者養成事業の参加者がなく中止となった。次年度は内容を再検討して実施する。

(2) 施設利用（主催事業以外）

(A) 宿泊利用

【利用施設及び利用者数】

	屋内		キャンプ場		合計	
	月平均	累計	月平均	累計	月平均	累計
年間目標	—	—	—	—	—	—
利用者数	217	2607	56	666	273	3273

[年度評価]

- ・ 年間を通しては、7月の大雨の影響で合計での利用者数は昨年度よりも落ち込んだ。
- ・ 宿泊利用者をさらに増やすために、平日連泊での企業研修などを誘致していきたい。

(B) 日帰り利用

【利用施設及び参加者数】

	キャンプ場		和室		体育館		クライミングウォール	
	月平均	累計	月平均	累計	月平均	累計	月平均	累計
年間目標	—	—	—	—	—	—	—	—
利用者数	380	4564	478	5734	1349	16182	161	1933

	料理室		研修室		音楽室		創作室	
	月平均	累計	月平均	累計	月平均	累計	月平均	累計
年間目標	—	—	—	—	—	—	—	—
利用者数	377	4528	512	6149	56	671	173	2077

	交流室		合計	
	月平均	累計	月平均	累計
年間目標	—	—	—	—
利用者数	17	209	3504	42047

〔年度評価〕

- ・ 施設の特長によって多い時間帯と少ない時間帯がはっきりしているので、少ない時間帯にいかにより利用していただけるかの対応をしていきたい。
- ・ クライミングウォールなど特徴ある設備をもっとアピールし、利用者増に努めたい。

3. 不動産の貸付に関する事業

中央YMCA及び阿蘇YMCAの土地の一部を学校法人熊本YMCA学園に貸与

1) 中央	熊本市中央区新町1-3-8の土地のうち、461㎡を貸与
2) 阿蘇	阿蘇市車帰の土地のうち、1919.8㎡を貸与

4. 自動販売機手数料事業

各施設に設置している自動販売機の手数料収益

1) 中央	7台（前年度と設置台数変更なし）
2) みなみ	5台（前年度と設置台数変更なし）
3) ながみね	3台（前年度と設置台数変更なし）
4) むさし	5台（前年度と設置台数変更なし）

第2 処務の概要

1 評議員・役員等に関する事項

(1) 評議員

(2013年3月31日現在)

役職名	氏名	職業	就任年月日	担当事務	報酬	備考
評議員	椎葉 朋子	保育士	H24年4月1日		無給	
評議員	本堀 秀一	牧師	H24年4月1日		無給	
評議員	島 優子	音楽家	H24年4月1日		無給	
評議員	森 博之	公務員	H24年4月1日		無給	
評議員	上村眞智子	団体役員	H24年4月1日		無給	
評議員	今村 秀夫	自営業	H24年4月1日		無給	
評議員	岩本 悟	会社役員	H24年4月1日		無給	
評議員	藤本猪智郎	弁護士	H24年4月1日		無給	
評議員	米村 謙一	会社役員	H24年4月1日		無給	
評議員	小堀 鈴代	会社員	H24年4月1日		無給	
評議員	武藤 興紀	病院長	H24年4月1日		無給	
評議員	篠崎 泰子	テイクビズ施設長	H24年4月1日		無給	
評議員	前田香代子	無職	H24年4月1日		無給	

(2) 役員 (理事・監事)

(2013年3月31日現在)

役職名	氏名	職業	就任年月日	担当事務	報酬	備考
代表理事	吉本貞一郎	会社役員	H24年4月1日	理事長	無給	
代表理事	堤 弘雄	私学職員	H24年4月1日	専務理事	無給	
理事	守田 富男	会社員	H24年4月1日		無給	
理事	福田 稠	病院理事長	H24年4月1日		無給	
理事	歌野 清三	無職	H24年4月1日		無給	
理事	平山 俊生	会社役員	H24年4月1日		無給	
理事	吉本 寛治	会社役員	H24年4月1日		無給	
理事	菅 正康	開業医	H24年4月1日		無給	
監事	吉岡 光憲	税理士	H24年4月1日		無給	
監事	川上 安生	会社役員	H24年4月1日		無給	

2 職員に関する事項

(2013年3月31日現在)

	フルタイム	パートタイム	合計
講師職	38名	—	38名
事務職	38名	25名	63名
合計	76名	25名	101名

3 評議員会・理事会に関する事項

(1) 評議員会

開催年月日	出席数	議事内容	会議の結果
2012年4月2日 (招集手続省略)	12名	〔決議事項〕 ・評議員会運営規則制定の件 ・2012年度事業計画承認の件 ・2012年度収支予算承認の件	・制定を承認 ・事業計画を承認 ・収支予算を承認
2012年5月31日	10名	〔決議事項〕 ・2011年度計算書類等承認の件 〔報告事項〕	・計算書類等を承認

		<ul style="list-style-type: none"> ・2011年度事業報告について ・評議員及び理事からの辞任の申出について 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告内容を了承 ・報告内容を了承
2013年 3月 21日	9名	[決議事項] <ul style="list-style-type: none"> ・2013年度事業計画承認の件 ・2013年度収支予算承認の件 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画を承認 ・収支予算を承認

(2) 理事会

開催年月日	出席数	議事内容	会議の結果
2012年 4月 1日 (招集手続省略)	8名	[決議事項] <ul style="list-style-type: none"> ・理事会運営規則等制定の件 ・2012年度事業計画承認の件 ・2012年度収支予算案の件 ・評議員会招集の件 	<ul style="list-style-type: none"> ・制定を承認 ・事業計画を承認 ・収支予算を承認 ・評議員会招集を承認
2012年 5月 16日	5名	[決議事項] <ul style="list-style-type: none"> ・2011年度事業報告承認の件 ・2011年度計算書類等及び財産目録承認の件 ・評議員会招集の件 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業報告を承認 ・計算書類等及び財産目録を承認 ・評議員会招集を承認
2012年 8月 27日	7名	[決議事項] <ul style="list-style-type: none"> ・経理規定等制定の件 [報告事項] <ul style="list-style-type: none"> ・職務執行状況の報告について ・7月期までの財務状況について 	<ul style="list-style-type: none"> ・制定を承認 ・報告内容を了承 ・報告内容を了承
2013年 1月 15日	4名	[報告事項] <ul style="list-style-type: none"> ・職務執行状況の報告について ・12月期までの財務状況について 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告内容を了承 ・報告内容を了承
2013年 3月 11日	6名	[決議事項] <ul style="list-style-type: none"> ・2012年度事業計画承認の件 ・H23年度収支予算案の件 ・評議員会招集の件 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画を承認 ・収支予算を承認 ・評議員会招集を承認

4 会員に関する事項

(会員数の推移)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
普通会員	6011	6581	6580	6576	6428	6578	6680	6624	6509	6529	6497	6519	6509
維持会員	985	1007	1041	1053	1052	1041	1081	1076	1077	1074	1072	1020	1049
合計	6996	7588	7621	7629	7480	7469	7761	7700	7586	7603	7569	6639	5448

第3 附属明細書

2012年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成しない。